

(1). 教育理念・目標

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・創立者の精神「人技両立」の教育理念は実行されているか？	全体	【4】
・職業教育の技術面、及び職業観について重視した教育となっているか？	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】
・当校のカリキュラムが業界のニーズを満たせるようなものとなっているか？	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか？	全体	【4】
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の要求する人材育成が行えるようなものとなっているか？	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】

【現状の取組状況】

* 全体

技術者としての倫理観を学ぶ機会として全学生に救命講習を実施した。

それにより相手の生命を尊重するような意識を持てるように教育を行った。

また、コミュニケーションスキルを養うため入学や進級した4月にレクリエーション活動としてバーベキューを行い、また10月にスポーツ大会としてボウリングを行い、学生同士や教職員との絆を深めるような活動を行った。

資格取得に関しては、一部休学していた学生を除いて達成した。

実践的な技術を学ぶという部分に関しては、電子工学科・電気設備科・情報エンジニア科の一部のコースは企業と連携した授業の実施を行った。ウェブサイト、パンフレット、募集要項にて学校の理念、目的、学生の状況、学校の特色、将来構想を公開している。

* 電気設備科

学生の職業観について学ぶため、1年時に大阪府電気工事工業組合様との連携授業を行った。

これにより、実際に現場で働いておられる方との交流を深め、電気工事士という仕事と向き合う機会となった。

2年生については、1年時に電気工事工業組合との交流はすでに完了しており、就職するにあたって学生の希望を最大限取り入れた形で就職活動ができるように就職課や担任教員によるヒアリングを含め、規模するような企業の紹介などを通してサポートを行っている。

職業教育の技術面の成長については、大阪府電気工事工業組合様との連携授業や今年度試験的に企業のご協力の元実際の工事現場の見学を学生1名に対して行った。職業実践専門課程の認定学科のため、教育課程編成委員会の開催は必須事項であり、委員会を通して業界関係者の意見を伺う機会を持っている。

委員会でのご意見をもとに、現場を想定した様々な実習を導入し実施している。

1年生は、電気工事工業組合様との連携授業や試験的に実施した現場見学を通して、また2年生については実習室の天井照明器具取り替え工事や今後の技術革新を見越して行っているドローン実習などを通して実施している。

* 電子工学科

5Gラボを見学し先端技術が実際にどのように企業で活用されており、今後どのように発展するのかを実際に説明を受け、体験することによりイメージを高めた。

校内では、Chat GPTなど生成AIの活用について詳しい講師を招き、活用方法やこれからの仕事の変化について講演を実施した。

企業連携としては、ロボット工学実習や回路製作といった実習授業において連携し意見を頂いている。教育課程編成委員会の開催は必須事項であり、委員会を通して業界関係者の意見を伺う機会を持っている。

電気・電子の基礎知識について座学を通じて指導を行うとともに、実習ではグループワークを採用しチームで役割を決め実習課題に取り組んでいる。経験豊富な講師陣によるケーススタディ方式で授業を展開している。教育課程編成委員会の開催は必須事項であり、委員会を通して業界関係者の意見を伺う機会を持っている。

電気・電子の基礎知識について座学を通じて指導を行うとともに、実習ではグループワークを採用しチームで役割を決め実習課題に取り組んでいる。経験豊富な講師陣によるケーススタディ方式で授業を展開している。

* 情報エンジニア科

キャリアデザイン実習を実施することで、職業観を構築する。

企業連携は、校内授業であるが、企業経験が豊富な講師による実践的なカリキュラムを実施している。IT業界に就職するためには、基本情報技術者試験は必須であることを踏まえ、アルゴリズムを中心に資格対策を実施した。

取得が困難な学生には、J検を受験させて、自信をつけれるようにした。AIを活用できるようになることを目的に、AI実習を強化した。

【課題】

* 全体

情報エンジニア科については、キャリアデザインという授業科目を設定し、ビジネスマナーや社会人として求められるものを学べるようにしている。電子工学科・電気設備科では現在そのような授業の設定がないため、今後その部分を改善していく必要がある。

また、実践的な技術を学べるような授業を十分にできていない部分もあるため、今後それについても改善していく必要がある。

更に、今後は留学生が増えることが予想されるので、留学生の対応も課題になると考えている。アドミッションポリシーについては募集要項には記載できないためウェブサイトでの公開となっている。

学校で学ぶうえで学生に従っていたりいただくものとなるため、更にその部分を確認していただけるように周知が必要であると考えている。

* 電気設備科

今回実施した現場見学とも関連するが、学生が実際の仕事の状況を肌で感じる機会を作ることは学校として強く希望しているが、課題が多い。
今回実際に学生1名のみであるが、現場見学を実施した。
結果としては、非常に好評だったが現場はやはり多少なりとも安全性にリスクが有り必ずしも全学生を連れて行くことができるかについては難しいと考えている。
今後その線引をどうするか、また協力企業が現在は1社しか無いため企業の負担についても検証していく必要がある。本年度は、試験的に1年生1名を現場見学に連れていったが、学生を危険な現場につれていくにあたっての課題事項などもあり、学生全員を連れて行くのが正しいのかについて検討が必要である
と考える。
また、2年生が後半に行くに従って就職が決まり授業や実習に対する取り組みの熱意が低下しているという問題が起こっている。

＊電子工学科

先端技術の発展や話題のAI技術について学生に指導できているが、就活の動きが遅い傾向にある。
理由としては、「どのようにして会社を選んだら良いか分からない」や「就活がうまくいかないのでは」と不安があることが、学生アンケートからも声が上がっている。
現時点でも各専門分野の実習について一定の評価をもらっている。しかし、授業を展開する講師陣の高齢化が進んでおり、今の教育水準を維持するための教員の確保が必要である。

＊情報エンジニア科

キャリアは自身のことであることを実感できず、自分には関係ないと思っている学生が多い。
校内授業のみでは、現場の雰囲気が理解しづらい。現在、現場実習を実施していただく企業を探しているがみつからない。未だ、基本情報技術者試験を取得率は、他校と比べても低い。
J検は、企業の認知度が低い。未だ、生成AIを使いこなせない学生が多い。

【今後の改善点】

＊全体

ビジネスマナーや社会人として求められるものを学べる機会を得るため、電子工学科についても来年度から授業にキャリアデザインをいれるべく準備を行っている。
電気設備科については第二種電気工事士認定学科ということもあり授業に時間数について制約があるため、その部分をどう改善していくかを検討していく。
実践授業については、企業との連携で実施できている部分もあるが、実際の現場見学なども含めて今後実施できるよう方法を検討して行く。
留学生への対応として、留学生担当と担任が協力し、個々の留学生に合った対応をしていくようにする。アドミッション・ポリシーについてAO入試の面接で理解しているか確認していく

＊電気設備科

今回試験的に実施した現場見学に行く学生の人数を増やしていく。
また、ご協力頂ける企業を引き続き探していく。現場見学に参加させる学生の人数を増やし、実践的な体験をできるように取り組んでいく。
2年生の授業でのモチベーションを上げるべくより興味を持ってもらえるような授業や実習の完全な努めていく。

＊電子工学科

次年度より、キャリアデザイン実習を設け、授業内で就職活動について指導する。経験豊富な教員の確保に努めるとともに、企業と常に連携し、業界のニーズにしっかり応えられるように体制を整える。

＊情報エンジニア科

1年次から取り組む必要があり、週1時間から2時間に増やす。
現場実習にご協力いただける企業を引き続き探していく。MOSを取得することを推奨していく。生成AIからの回答を評価できるように指導していく。

(2). 学科運営

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか（教務）	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか（教務）	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか（教務）	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか（総務）	全体	【4】
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか（総務）	全体	【4】
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	全体	【4】
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	全体	【4】
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	全体	【4】

【現状の取組状況】

＊全体

学園では、就業規則および関連規程を整備し、適切な人材配置および給与管理を行っている。

職員の雇用形態や職務内容に応じた配置を行い、業務の適正化を図っている。

また、就業規則に沿って給与算定を行い、適正な運用を実施している。学園では毎年予算理事会を開催し、各担当が策定した学園事業計画を理事会で審議・承認する体制を整えている。

学園運営の安定化と事業の持続的な発展を目指し、財務基盤の強化を図るとともに、各部門の実情を反映した適正な予算配分を行っている。各学科は文科科学省の規定に従ってカリキュラムや授業時間数を管理している。

また、各省庁の認定授業等に対して規定された時間数や教員数、機材等を満足しており問題ない。

情報公開についても規定された情報をWebサイトなどにて公開を行っている。

学生が犯罪に巻き込まれないように学生指導ユニットを中心として広報活動や担任からの注意喚起などを通して学生が犯罪に巻き込まれないような対策を行っている。公開資料はウェブサイトにて公開されている。

また、パンフレットについては教員間で事前に内容を確認し正確に公開されていることを確認している学園では、各種証明書の発行業務を効率化するため、HP上に詳細な手順を掲載し、受付から発送までのプロセスをスムーズに運用している。

これにより、申請者の利便性向上と事務処理の迅速化を実現している。

また、学校運営情報をHP上に適切に掲載し、関係者が必要な情報を円滑に閲覧できる環境を整備しており、教職員や学生、保護者に対する情報提供の透明性を高め、学園運営の効率化にも寄与している。

* 電気設備科

学園事業計画の各学科の目標等は、理事会にて承認された。

また、その目標に基づき年間授業計画を作成した。

授業はシラバスに従い実施された。学園事業計画の各学科の目標等は、理事会にて承認された。

また、その目標に基づき年間授業計画を作成した。学園内でシラバス作成後に内部で承認のための会議を行い妥当性を検証している

* 電子工学科

学園事業計画の各学科の目標等は、理事会にて承認された。

また、その目標に基づき年間授業計画を作成した。

授業はシラバスに従い実施された。学園事業計画の各学科の目標等は、理事会にて承認された。

また、その目標に基づき年間授業計画を作成した。

学園内でシラバス作成後に内部で承認のための会議を行い妥当性を検証している

* 情報エンジニア科

学園事業計画の各学科の目標等は、理事会にて承認された。

また、その目標に基づき年間授業計画を作成した。

授業はシラバスに従い実施された。学園事業計画の各学科の目標等は、理事会にて承認された。

また、その目標に基づき年間授業計画を作成した。

学園内でシラバス作成後に内部で承認のための会議を行い妥当性を検証している

【課題】

* 全体

現行の就業規則については、時代の変化に対応した柔軟な運用が求められており、見直しの必要性を認識している。

特に、働き方改革や多様な雇用形態への対応を踏まえ、より実態に即した規程の改訂を検討している。昨今の外部環境の変化や諸物価の高騰により、設備費、光熱費、人件費の上昇が続いており、学校運営コストも毎年増加している。

一方で、全国的に進行する少子化の影響を受け、学生募集において厳しい状況が想定される。一部の科目で学校側で把握している授業時間数と学生の実際に不足している時間数の認識に齟齬があり学生に不安を抱かせる結果となってしまった。ウェブ公開の場合は、情報に何かしらの変更点が合った場合に比較的早く修正を行うことができるが、パンフレットの場合は追加での変更事項がその年度分では基本的に反映が困難なため作業として負担が大きくなる。証明書発行や情報提供のスムーズさは確保されているため、今後利用者、学生の意見を反映し、改善点を把握したい。

* 電気設備科

授業の実施状況について、客観的に示すためにどのような方法があるかを検討し今後その資料を用意できるように準備していく。授業の実施状況について、客観的に示すためにどのような方法があるかを検討し今後その資料を用意できるように準備していく。各科目担当者からのシラバス修正事項を入力しシラバスは作成されている。

そのため、科目担当者が間違って記入した場合にこちらではそのミスを判断することができない。

その部分をどのように改善していくかが今後の課題だと考えている。

* 電子工学科

授業の実施状況について、客観的に示すためにどのような方法があるかを検討し今後その資料を用意できるように準備していく。授業の実施状況について、客観的に示すためにどのような方法があるかを検討し今後その資料を用意できるように準備していく。各科目担当者からのシラバス修正事項を入力しシラバスは作成されている。

そのため、科目担当者が間違って記入した場合にこちらではそのミスを判断することができない。

その部分をどのように改善していくかが今後の課題だと考えている。

* 情報エンジニア科

授業の実施状況について、客観的に示すためにどのような方法があるかを検討し今後その資料を用意できるように準備していく。授業の実施状況について、客観的に示すためにどのような方法があるかを検討し今後その資料を用意できるように準備していく。各科目担当者からのシラバス修正事項を入力しシラバスは作成されている。

そのため、科目担当者が間違って記入した場合にこちらではそのミスを判断することができない。

その部分をどのように改善していくかが今後の課題だと考えている。

【今後の改善点】

* 全体

次世代を担う若手職員が安心して働き続けられる環境を整備することが重要である。

そのため、給与体系の見直しや福利厚生の充実を図り、職員の生活基盤を維持しながら長期的なキャリア形成を支援する制度の整備を進める。本学園では、諸物価の高騰や少子化など、学校法人が単独で解決することが難しい外部環境の変化に対応しながら、中長期的な視点を持ち、持続可能な財務基盤の構築と教育の充実の両立を進めていく。授業担当教員との連携を密にし学生に不安を与えないように改善を行っていく。パンフレットに記載される内容を厳選し、ウェブサイトの公開でも問題ない情報はウェブサイトに記載するなどパンフレットに盛り込めない分ウェブサイトの情報や学生の普段の様子などはそれ以外のソーシャルメディアなどで積極的に公開していく。証明書発行の主な対象である卒業生・在校生の意見を収集し、学校運営や情報提供の質の向上につなげる。

＊電気設備科

客観的に授業の実施状況を示すための方法を検討していく。客観的に授業の実施状況を示すための方法を検討していく。シラバス作成後に修正が完了したシラバスを各担当者に渡して確認を依頼しているが、作成ミスなど防止のためのチェックシートを作成し各担当者にチェックしてもらえるように改善していく

＊電子工学科

客観的に授業の実施状況を示すための方法を検討していく。客観的に授業の実施状況を示すための方法を検討していく。シラバス作成後に修正が完了したシラバスを各担当者に渡して確認を依頼しているが、作成ミスなど防止のためのチェックシートを作成し各担当者にチェックしてもらえるように改善していく

＊情報エンジニア科

客観的に授業の実施状況を示すための方法を検討していく。客観的に授業の実施状況を示すための方法を検討していく。シラバス作成後に修正が完了したシラバスを各担当者に渡して確認を依頼しているが、作成ミスなど防止のためのチェックシートを作成し各担当者にチェックしてもらえるように改善していく

(3). 教育活動

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	全体	【4】
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	全体	【4】
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	全体	【4】
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	全体	【4】
	電設	【4】
	電子	【4】
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	情報	【3】
	全体	【4】
・授業評価の実施・評価体制はあるか	全体	【4】
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	全体	【4】
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	全体	【4】
	電設	【4】
	電子	【4】
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	情報	【4】
	全体	【4】
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	電設	【4】
	電子	【4】
	情報	【4】
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	全体	【4】
	電設	【4】
	電子	【4】
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	情報	【4】
	全体	【4】
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	全体	【4】

【現状の取組状況】

＊全体

学園事業計画の各学科の目標等は、理事会にて承認された。

また、その目標に基づき年間授業計画を作成した。

授業はシラバスに従い実施された。

人技両立に基づき、学生のための活動などを計画した。

また人命の尊さを学ぶため、全学生対象に学内で救命講習を実施した。カリキュラムの決定は、年度開始時に年間授業計画承認会議にて決定し学校の教育の目的や理念に従って作成されていることを確認し承認される。

教育課程編成委員会で提案された内容は必要な座学や実習の科目に適切に盛り込み授業内で実施されている。教育課程編成委員会で提案されたご意見を実習などの担当者が授業に盛り込む方法や高い評価を受けた授業の内容などをシラバスに盛り込んだり、座学や実習で実施している。

また、学生アンケートを行い、それぞれの授業に対する学生の満足度を調査し教育課程編成委員会で委員の皆さまへの参考資料として提示しそこから委員の皆様のご意見を伺って授業の改善に取り組んでいる。

年に2回教育課程編成委員会を実施し、委員の皆様から業界での必要とされる知識や技術について情報をお伺いしている。

教育課程編成委員会でご提案いただいた内容を実習で取り入れて活用している。

また、委員会を年2回開く中で3月期の委員会では実績の報告と今後の改善点について話し合っている。各学期、または前後期で座学についての修了試験が実施されている。

実習については、課題の達成により可否が決まるようになっている。

座学各科目の終了基準は、可以上の成績で合格となっており、具体的な点数配分については受験者全体の点数を加味して決めている。

また、不可だった場合であっても再試を受ける機会が与えられており、再試にて合格した場合成績は可としてその科目の修了を認めている。学校関係者評価委員会は実施されており、企業委員、有識者の出席の元適切に実施されている。

企業委員や有識者は大阪電子専門学校の所属教員ではない。

委員会の議事録はウェブサイトにより公開されている。シラバスはインターネットで公開している。

全学生は校則を配布し、出席率や修了要件を学生に明確に示している。各学科の教員数は学生の授業を行うにあたって必要数確保されている。

法律の要件に従い教員を配置している。

また、教員の研修については計画を立てて実施されている。

学園事業計画に基づき、AI・ロボットに関連する研修を教員に受けさせている。教員の研修計画については、各学科ごとに必要な研修を検討し作成している。

また、当校の重点事項としてAI・ロボットに関連した研修が毎年入るように計画を行っている。

研修については各学科とも実施できている。研修計画に対しては教員の突発できない業務の関係で計画していたが受講できなかった研修があった。研修については各学科とも実施できている。研修計画に対しては教員の突発できない業務の関係で計画していたが受講できなかった研修があった。

* 電気設備科

時間割作成後、年間の授業予定時間数を計算し、各学年の資格要件に対して問題がないことを確認している。

また、年間授業時間数については十分な時間となるよう予定の調整を行っている。

新しくインフォクリッパーによる授業や出席等の管理システムで2024年度からオンラインによる時間数や授業管理を行っている。職業教育の目的は、職業実践専門課程公表資料にて提示しており、その内容については委員会での検討内容と整合性が取れている。

学校の設備は、長期休暇前後で確認され、授業の実施に支障が内容点検されている。

実践的な連携授業が実施されている。時間割作成後、年間の授業予定時間数を計算し、各学年の資格要件に対して問題がないことを確認している。

また、年間授業時間数については十分な時間となるよう予定の調整を行っている。

資格対策については、第一種電気工事士を重点資格として週に3時間の受験対策講座を行っている。

学生の授業や実習の中で第一種電気工事士を含む資格の取得についてのメリットを伝えしている。電気設備科1年は実習内で電気工事工業組合様との連携授業により電気工事や電気設備点検で利用できるよう体験としてドローンの飛行体験や高所作業車の乗車体験を行った。

また、その際業界関係者からのお話をお聞きし実際の現場での経験などを学べるように工夫した。

試験的に電気設備科1年の学生1名に現場見学を行った。現場の作業をされている方のお話をお聞きしながら、実際の現場を見て現場の雰囲気を感じてもらうことができた。

実習や座学の講師は実際に現場で関連業務を行っていた講師を積極的に採用している。

* 電子工学科

時間割作成後、年間の授業予定時間数を計算し、各学年の資格要件に対して問題がないことを確認している。

また、年間授業時間数については十分な時間となるよう予定の調整を行っている。

新しくインフォクリッパーによる授業や出席等の管理システムで2024年度からオンラインによる時間数や授業管理を行っている。職業教育の目的は、職業実践専門課程公表資料にて提示しており、その内容については委員会での検討内容と整合性が取れている。

学校の設備は、長期休暇前後で確認され、授業の実施に支障が内容点検されている。

実践的な連携授業が実施されている。時間割作成後、年間の授業予定時間数を計算し、各学年の資格要件に対して問題がないことを確認している。

また、年間授業時間数については十分な時間となるよう予定の調整を行っている。

講義内において、工事担任者第2級デジタル通信の資格対策を実施しており、

第1種および第2種電気工事士を受験希望者については課外時間に指導を実施している。

実験・実習・就職指導の中で、各種資格の優位性について説明を実施している。ロボット工学実習では、ロボット製作におけるプロセス(目標・アイデア・仕様と設計・加工・プログラム制御)について企業の方から直接アドバイスを受けながら学んだ。製作実習においても参加していただき、アドバイスをいただいた。

また、Chat GPTなど生成AIの活用方法について企業の方の講演を受けた。

* 情報エンジニア科

時間割作成後、年間の授業予定時間数を計算し、各学年の資格要件に対して問題がないことを確認している。

また、年間授業時間数については十分な時間となるよう予定の調整を行っている。

新しくインフォクリッパーによる授業や出席等の管理システムで2024年度からオンラインによる時間数や授業管理を行っている。職業教育の目的は、職業実践専門課程公表資料にて提示しており、その内容については委員会での検討内容と整合性が取れている。

学校の設備は、長期休暇前後で確認され、授業の実施に支障が内容点検されている。

実践的な連携授業が実施されている。エンジニア系は、基本情報技術者試験を目指しているが、上記が困難な学生はJ検を取得させている。

デザイン系は、アドビ資格(Illustrator、Photoshop)業界から来られた先生方に、現場で役に立つ実習を増やすことで、実践教育を実施している。

【課題】

* 全体

人技両立に基づいた授業以外の活動については、今後も改善しつつ様々な活動を行っていく必要があると感じている。実際に提案された内容でも実施が困難な場合もありその場合も含めて学内でカリキュラムにどう盛り込むかを検討している。

ただ、その提案を活かせない場合にどのように対応していくのかについて効果的な方法を検討していく必要があると考えている。学科によりアンケートの実施方法を改善しておりアンケートの調査に差異がある。

授業の改善によりつながるようなアンケート内容に皆瀬する必要があると考えている。教育課程編成委員会の実施を本年から年に2回とし学校関係者評価委員会の時期とずらすように対応した。

そのため、予定の調整で若干うまくできていないところがあった。各科目ごとに成績の判定基準が若干異なっている。

ただ、全体の成績が悪い場合には学生にとって有利となるよう点数の調整が行われており問題は無い。

ただ、統一的な基準がないことで学生側にとって分かりづらくなっている面がある。委員は、企業関係者と有識者で構成されており会としては問題ないが多様な意見を取り入れるためには、学生や地域、保護者などの各方面からの委員の参加も合ったほうが、より意見の質が高まると考えられる。

学生や地域、保護者の参加が無いことが課題であると考えている。インターネットで公開された情報だけでは実際の学生の出席状況を学生本人が理解できていない場合があるため、担任や各授業担当者からの学生へ状況を伝える必要があり、その部分でうまく学生に伝わっていなかった部分が今回見受けられた。AI・ロボットを当校では教育の柱にしており、教員研修についてはそれらを研修内容に含むように研修は計画している。

ただ、実際の研修は当校の授業の方針を完全にカバーできる研修が存在しておらずその部分をどのように補っていくのが今後の課題である。研修計画に対して実際に参加できなかった研修が存在しており、計画通りに実施できていない部分もある。

* 電気設備科

インフォクリッパーについては教員側も不慣れな面もあり、この調整で1年間費やしてきた。

また、今までと違うため管理作業などで学生・授業担当者・学校で認識のズレなどもあり改善が必要だと感じている。設備も、年を重ねるごとに老朽化や破損が発生する備品もあり、高額なものの場合その購入等について困難な場合もある。その部分をどうしていくのか、その機器を使用せず実習カリキュラムを変更するのかなどを検討する必要があると予想される。第一種電気工事士取得を大きな目標と捉え指導しているが、それ以外の資格に対して学生のモチベーションがあまり上がらずその部分が課題であると感じている。現場見学を行った際に、学生によっては危険な場合もあり全員を現場に連れて行くには受け入れ先企業の負担もあり引き続きそのあたりの基準をどうするのかを検討事項となっている。

また、受け入れ先企業を増やすことも課題となっている。

* 電子工学科

インフォクリッパーについては教員側も不慣れな面もあり、この調整で1年間費やしてきた。

また、今までと違うため管理作業などで学生・授業担当者・学校で認識のズレなどもあり改善が必要だと感じている。企業との連携実習自体の実施については問題ない。現在、ロボット分野における連携授業および生成AIに関する特別講義が主であるが、他の分野への波及が望まれる。カリキュラムに組み込まれた資格については問題なく取得可能である。

第2級デジタル通信を全員取得の目標としているが、モチベーションの高い学生は自ら積極的に受験しているが、低い学生については受験意識が低い。資格の取得数についても大きな差が生じている。生成AIの活用について授業などで学ぶが、学んだ内容を実際に活用したり発信する機会が少なく、学生自身興味はあるものの活用するまでに至っていないように感じる。

* 情報エンジニア科

インフォクリッパーについては教員側も不慣れな面もあり、この調整で1年間費やしてきた。

また、今までと違うため管理作業などで学生・授業担当者・学校で認識のズレなどもあり改善が必要だと感じている。キャリアデザイン実習でSPI対策を行っているが、未だ十分な効果がでていない。基本情報技術者試験の取得率は低く、今後もアルゴリズムやプログラミングに意欲を向上させる。学生のモチベーション低下により、期待している効果がでていない。

【今後の改善点】

* 全体

通常の授業の科目以外にキャリアデザインという授業を情報エンジニア科では行っており、来年度は電子工学科の授業科目にも導入する予定である。

また、将来的には電気設備科にも導入を検討しており、人技両立に基づいた学生の学びの場を用意していきたいと考えている。活かせなかった提案の改善方法などについて引き続き検討していく必要がある。今回のアンケートの結果をもとに授業改善につながるようなアンケートの質問形式へと改善を行っていく。次年度の委員会開催にあたっては予定作成に付いての担当者の割当を検討し、今回の予定調整で発生した問題点を解消したいと考えている。各担当教員に年度初めの際に出席や成績の決まり方について教科ごとに説明いただくように依頼していく。保護者や地域の方の参加を募るべく2025年度は保護者等にも積極的に委員会への参加を呼びかけていく。教科担当者から学生への出席率の情報が学生にスムーズに伝わるように担任から教科担当者への働きかけを行う。AI・ロボットの基礎分野の研修を中心に研修計画に入れ、今後スキルアップできるような上位の研修があれば教員のスキルを高めていく。教員の予定を研修に合わせて立てるように工夫していく。

実際に誰が行くのかを研修計画時に明確にして計画通りの研修を受講できるように進めていく。

* 電気設備科

インフォクリッパーの運用について細かい部分のルール化を図り、効果的に授業時間数などの管理を行っていく。安価な工具等についてはある程度破損なども見越して実習予算で購入を行っていく。第一種電気工事士以外の資格についても、さらに所得するメリットを伝えていく。現場見学を行える学生数を更に増加させる。

また、受け入れ先企業を増やすために引き続き働きかけを行っていく。

* 電子工学科

インフォクリッパーの運用について細かい部分のルール化を図り、効果的に授業時間数などの管理を行っていく。更なる実践教育の展開という面では、外部のハッカソン等のイベントへの積極的な参加を推進し、他の企業へのアピールを実施することによる新しい産学連携の推進である。資格を取得することによるメリットを学生のキャリアプランと照らし合わせ、自ら資格取得への意欲を引き立てるように仕向ける必要がある。各授業内で生成AIを使用させ学んだことを発表させる機会を設ける。

* 情報エンジニア科

インフォクリッパーの運用について細かい部分のルール化を図り、効果的に授業時間数などの管理を行っていく。学生が自ら実施できる環境と教材を構築していく。就活に繋がる資格を取得することが大切であり、企業のニーズにマッチした資格を目指す。学生のモチベーションを向上させる授業を構築する。

(4). 学修成果

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・就職率の向上が図られているか	全体	【4】
・資格取得率の向上が図られているか	全体	【4】
・退学率の低減が図られているか	全体	【4】
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	全体	【4】
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	全体	【4】

【現状の取組状況】

* 全体

就活については、本人の希望を最優先とし、強制的に斡旋は実施しない。

学生の希望により、面接練習や履歴書の添削を行っている。電気設備科では、第一種電気工事士を中心として資格対策講座が開かれている。

電子工学科でも、希望者に対して第二種電気工事士の資格対策講座が行われている。

情報エンジニア化については、授業カリキュラム内に資格対策講座を入れており、情報系の資格取得の支援を行っている。

各学科で関連する資格について、担任や担当教員から資格取得についてのメリットなどを説明している。すべての学科、学年のクラスには担任が配置されており、全員への面談や就職支援、出席や学校生活について問題がある場合はそれ以外での個別面談なども実施している。

また、学校全体の取り組みとして、問題がある学生に対して学校長への報告および学科内での情報共有や相談を適宜実施している。求人依頼に来訪された企業様に、本校の卒業生の状況をお伺いすることで、各担任から実際に卒業生の近況を聞くことで、把握している。インターシップ・企業説明会・入社試験の報告書を作成させ、就活指導の参考にしている。

【課題】

* 全体

就職斡旋を希望しない学生が、5名いた。

学生の意志を尊重した結果、内定時期が遅くなった。

留学生は、不採用となる事例が多く、学生の希望と就職先企業の希望する人材とのミスマッチが起こっていたと考えられる。学生が資格取得のために熱心に勉強する資格について偏りが出ている部分があり、その受験及び合格率の高い資格以外の資格についてどのように支援していくかが課題だと考えている。出席指導について、教科担当者ごとに対応が違う部分があり、それにより混乱している学生が見受けられた。すべての学生について、追跡調査できていない。

卒業後来校してくれた卒業生からの情報については、ある程度情報収集が行えている。各担任が独自の情報を持っており、統一されたデータベースが無いため、参考にならない場合がある。

【今後の改善点】

* 全体

就職斡旋を希望しない学生をなくす。

一般的に内定式が行われる10/1までには全員就職させる。学生から人気のない資格についても、その取得メリットを丁寧に説明していく。

授業などで資格関連の対策を行う際に、教え方を改善していく。担当教員と学生の間で担任がフォローを行い、学生が自分の出席状況についてこまめに把握できるよう支援を行っていく。infoClipperに登録する等、

卒業生をフォローできるしくみを検討していく必要がある。次年度の学生へ展開できるように記載内容を改善させる。

(5). 学生支援

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	全体	【4】
・学生相談に関する体制は整備されているか	全体	【4】
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	全体	【4】
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	全体	【4】
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	全体	【4】
・学生の生活環境への支援は行われているか	全体	【4】
・保護者と適切に連携しているか	全体	【4】
・卒業生への支援体制はあるか	全体	【4】
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	全体	【4】
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	全体	【2】

【現状の取組状況】

* 全体

求人票ファイル、センター掲示など、学生に情報共有している。すべての学科、学年のクラスには担任が配置されており、学生の面談や就職支援、出席管理や指導を実施している。

また、学校全体の取り組みとして、問題がある学生に対して学科内及び教員内で情報共有や相談を適宜実施している。学生への支援制度は企画・広報ユニットと連携を取りながら毎年見直しを行っている。学生に対する健康診断は毎年4月頃に実施されている。

また、再検査については担任から学生へ口頭での通知と再検査の受診をするように伝えている。

学校医が選任されており、学生の健康や防疫について相談できるようになっている。レクリエーションやスポーツ大会などの活動を通じて学生同士や教職員のコミュニケーションを取れるようにした。

学期末パーティーでは学生主体で準備／進行を行い積極性を養った。

救命講習を全学科、全学年での実施し、救命時の行動やAEDの使用方法を習得した。学生への支援制度は企画・広報担当と連携し毎年見直しを行っている。

また、奨学金の担当者を置き奨学金を受けている学生の支援にあたっている。

学生が修学支援制度を利用できるように学校として体制を整えた。保護者との面談のご案内を全学生に対して行い、保護者が希望される場合やこちらが希望する学生に面談できるよう体制を整えている。

クラスの担任は、学生の出席状況、成績、就職について支援と指導を行っている。また、特に遅刻などの問題がある学生については保護者への連絡をこまめにおこなっている。

保護者からの問い合わせに対しては担任を中心として対応を行っている。本年度は2名、来校し、その内1名は就活を実施し、無事に内定をいただいた。高校既卒者や、大学卒業後の学生を受入れ、学び直しができる環境を構築している。現在、高校生に対する出前講座などは行っていない。

ただ、オープンキャンパスにて高校生を含め、当校に興味を持ってくださっている方を対象に体験講座と学校や業界について説明する機会を持っている。

【課題】

* 全体

学生が無断で欠席し、後で企業様から連絡を受けて知ることがあった。本年度は何名か退学者も出ており、それぞれ止むを得ない理由だと考えている。

学生個々に応じたサポートや支援を行っていく必要があると考えている。単純に金銭的な支援を行うだけではなく支援されるにふさわしい学生としての振る舞いを求め、学習意欲があり経済的なサポートが必要な学生への支援となるよう引き続き制度の改善を行う必要があると考える。現在に様々な家庭環境を抱える学生がいる中で、メンタルヘルスサポートの充実が課題となる。自分から話すことが苦手な学生に対して、どのようにしてコミュニケーションが取れるようにするか。

学期末パーティーでは学生主体での実施となっているが、一部参加したがいらない学生がいる。

そのような学生にどう対応していくのかは今後の課題であるとする。学習意欲があり経済的なサポートが必要な学生への支援となるよう引き続き、減額制度の内容について考えていく必要がある。出席状況の悪い学生のうち、保護者のいうことも聞く耳を持たない学生に対して、どのようにして保護者と連携していくか課題である。頼ってくる学生が少ない。年の差より、多少の考え方の違いが存在し、クラス運営が難しくなっている。現在、高校生向けの公開講座は行っていないため、今後どのように実施できるのかまた現在の学内の人員体制的に可能なのかを含めて検討する必要がある。

【今後の改善点】

* 全体

左記は、就活指導不足が一因と考えており、より学生と連携を強化する。今後も引き続きこまめな学生への連絡、保護者との連携、学内での教員同士の連携により学生の問題への対応を行っていく。対象となる学生に対して特に特待生についてはAO面接の他に筆記試験や追加面接なども行い、支援と学生の質向上に努めていく。学生が気軽に相談できる環境を整え、学校医とさらにスムーズな連携をとれるように体制構築に努めていく必要がある。話すことが苦手な学生に対して、出来るだけ話す機会を増やすようにしていく。

学期末パーティーで学生が色々な形でイベントに携われるようにサポートを行っていく。対象となる学生に対して特に特待生についてはAO面接の他に筆記試験や追加面接なども行い、支援と学生の質向上に努めていく。各クラスの学生の指導は各担任が行っているが、担任の能力にも限界があるため教職員全体でフォローを行う求人票の依頼時に、第二新卒や既卒でも有効な求人であるか伺いしていく。就職を目指す方向性を示し、クラス一丸となって全員就職に向かうようにする。高校生向け出前講座について検討を行う。

(6). 教育環境

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	全体	【4】
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	電設	【4】
	電子	【2】
	情報	【4】
・防災に対する体制は整備されているか	全体	【4】

【現状の取組状況】

* 全体

各長期休暇や台風などの災害前後で施設の点検を行っている。年に2回(4月、9月)避難訓練を実施し、また3月には防災用品の保存期間等のチェック、防災マニュアルの確認を行っている。

* 電気設備科

全員ではないが、現場見学という形で実際の業務を肌で感じて見る機会を学生に与えた。

* 電子工学科

インターンシップへの参加する意義、および自身のキャリアプランの形成について長期休暇前に説明し、自身の就職活動について考えるきっかけを与えているものの、今年度は参加を悩んでいる学生はいたが、参加にまで至らなかった。

* 情報エンジニア科

インターンシップの参加を呼びかけし、一部の学生は参加してくれた。

【課題】

＊全体

特に問題は発生していない様々な災害に対して、命を守るように可能な限り対応できるようにしていく必要がある。

＊電気設備科

現場の危険性もあり、すべての学生に体験させるのは難しい。
また、受入企業が現在1社しか無いことも課題である。

＊電子工学科

長期休業中におけるインターンシップへの参加を促すために、就職意識を入学後夏休みまでの間に根付かせる必要がある。

＊情報エンジニア科

インターンシップへの参加率は低い

【今後の改善点】

＊全体

特に問題は発生していない防災用品については引き続き充実を図っていく。また防災マニュアルについても状況に応じて改善を行っていく。

＊電気設備科

引き続き受け入れ先企業を探していく。
より多くの学生が現場見学を体験できるように働きかけていく。

＊電子工学科

次年度からキャリアデザインの講義を設けることで、これまで以上に就職意識およびキャリアについて考える時間を与えていく。

＊情報エンジニア科

インターンシップの必要性和重要性を説き、参加率を向上させる。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	全体	【4】
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	全体	【4】
・ 学納金は妥当なものとなっているか	全体	【4】

【現状の取組状況】

＊全体

InstagramやXでは実習風景やキャンパスライフの様子をショート動画で投稿し、入学したとのイメージを持ってもらえるように努めた。「人×AI×ロボット」のブランド力を高めるため、ロボットやIT系の投稿を中心にPRした。特別な授業、学生が興味を引く内容については、各学科の先生らから共有を受け、各種SNSでPRした。学園の学納金は、近隣の専門学校と比較しても大きな差はなく、妥当な水準にあると考えられる。

【課題】

＊全体

SNSの更新に力を入れていたため、HPの情報更新が最低限の内容にとどまっていた。SNSの更新に力を入れていたため、HPの情報更新が最低限の内容にとどまっていた。物価や生活費の上昇に伴い、学生や保護者の経済的負担は年々増加しており、学費の支払いが困難になるケースも想定される。

【今後の改善点】

＊全体

SNSとHPの情報を連携させる。HPの更新頻度についてある程度固定させる。SNSとHPの情報を連携させる。HPの更新頻度についてある程度固定させる。経済的支援の一環として、学園が学生が安心して学び続けられる環境を整備し、経済的な理由で進学や学業継続を断念することがないよう支援する。

(8). 財務

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	全体	【3】
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	全体	【4】
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	全体	【4】
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	全体	【4】

【現状の取組状況】

＊全体

学園では、安定した財務基盤の形成に向け、中長期的な視点に立った学園事業計画を策定し、経費節減などの施策を実施している。学内組織の変更や教職員の構成の見直しを進め、効率的な運営を図ることで、持続可能な財務基盤の確立に努めている。

次年度の入学希望者数については、安全な人数であるとは言い切れず、少子化の影響もあり、安定した学生数の確保が引き続き課題となる。そのため、若い世代を中心に新たな教育の魅力づくりに取り組み、大学では提供されていない専門教育の充実を進めている。また、資格取得率100%を目指した指導体制の強化を図り、学園の競争力向上を目指している。学園では、各担当部署が立案した事業計画案に基づき予算書を策定し、適切な財務管理を実施している。特に、広報部門が分析した学生募集計画案を基に、総務部門が収入予定案を作成し、適切な収支予算計画を立案することで、財務の健全性を維持している。また、諸物価の高騰やIT人材の需要増加による教員確保の難化、人件費上昇といった外部要因を考慮し、それを補うための出願者数の計画案を策定している。学園では、公認会計士による会計監査を実施し、適正な財務管理を行っている。私立学校法に基づき、当該年度の財務諸表および事業報告書を毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経て法人事務局に常備し、閲覧可能な状態としている。財務の透明性を確保するため、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書を毎年HPに公開し、更新を行っている。財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は学園のHPにて毎年更新公開している。

【課題】

* 全体

文部科学省の統計によると、18歳人口は今後も減少傾向にあり、専門学校や大学の競争が激化する中で、入学希望者数の安定確保が一層難しくなっている。また、コロナ禍が明けたことで留学生市場に変化が生じており、今後は留学生の確保をより強化する必要がある。学園では、適切な収支予算計画を策定し、財務の健全性を維持しているが、少子化の進行や他校との競争激化により、安定した学生募集が難しくなっている。今後もIT人材を教える教員の確保や人件費の上昇が見込まれるため、学園の収益構造に与える影響を考慮し、適切な対策を講じる必要がある。現在、公認会計士による監査は適正に行われているが、学園内の自己監査体制や内部統制の強化が求められる。監査結果のフィードバックを学園運営に活かし、物価高騰や社会経済の変化に対応できるよう、収入と支出のバランスを適切に管理する財務戦略の重要性が高まっている。現在の財務情報公開体制に特段の問題はないが、将来的な会計基準の変更や情報公開の要請強化に対応できるよう備えていく必要がある。

【今後の改善点】

* 全体

少子化に伴う国内学生の減少に対応するため、留学生の受け入れを強化し、安定した学生確保に努めている。留学生市場は国際情勢や各国の経済状況によって大きく変動するため、戦略的なアプローチが求められる。留学生向けのサポート体制を充実させ、入学後の定着率を高めることで、持続的な学生確保を図る。今後も、各担当部署が立案した事業計画案に基づき予算書を策定し、より戦略的な学生募集計画をもとに収入予定案を作成し、適切な収支予算計画を立案する。これを継続するとともに、留学生の受け入れ拡大による収益基盤の強化、IT教育の充実と教員確保による教育の質向上を推進する。企業連携や奨学金制度の充実を図り、持続可能な財務基盤の確立を目指す。監査結果を学園運営に反映する仕組みを強化し、予算策定や経費管理を教職員に浸透させることが重要となる。経費の最適化を進め、無駄な支出を削減しつつ、教育・設備投資を適切に配分する。今後も、適正な会計監査の実施と財務管理の強化を通じて、持続可能な学園運営と財務の透明性向上に努める。引き続き適正な管理・公開を継続するとともに、必要に応じて財務情報の更新手順や周知方法を見直し、透明性を維持する。

(9). 法令等の遵守

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	全体	【4】
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	全体	【4】
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	全体	【4】
・ 自己評価結果を公開しているか	全体	【4】

【現状の取組状況】

* 全体

法令に従って施設・設備や教員の配置は行われている。学生情報の書類を廃棄するために学内にはシュレッダーが必要数備えられている。個人情報を中心的に扱う階事務室では個人情報を操作できる職員が限定されている。SNSなどで情報発信を行う場合、対象となる学生に写真の使用許可などを得て実施している。自己評価の作成を各ユニットの担当者により行った。また、事前に各委員には自己評価の内容を回覧し委員会にて最終的に無いように問題ないことを確認している。改善点については、議事録にて確認し、その件について委員の皆様にご意見を頂戴している。自己評価の内容について委員の方からご意見が合った場合はその内容を反映している。自己評価の結果公開を行っている。2024年度の自己評価については、学校関係者評価委員会の開催後公開を予定している。

【課題】

* 全体

施設設備の老朽化や破損などが発生していくためそれらの修理、買い替えなどが必要になっていく。現在の個人情報保護対策は適切に実施されているが、情報漏洩リスクや法改正への対応についてセキュリティ面の強化は必要と考える。自己評価については内容量が多く1時間の会議では対応しきれないため事前にメールにて資料を委員の皆様にお送りしそのうえで委員会を実施している。

【今後の改善点】

* 全体

適宜買い替えや修理などを対応し適切な教育環境が維持できるよう努めていく。定期的な職員研修の実施や運用ルールの見直しを行い、個人情報の適正管理とセキュリティ意識の向上を図る。たまたま、その会議の際に資料を確認する時間が取れなかった場合のため委員会内では特に重点的なポイントだけにはなるが、経緯も含めた説明を行っていく。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	全体	【4】
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	全体	【4】
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	全体	【2】

【現状の取組状況】

* 全体

外国の方から、国際的な会議を行うための施設貸出の申請があり施設の利用を許可した。

救命講習を全学科、全学年に対して行った。

オープンキャンパスにて見学者に体験実習を行い、当校の教育の内容についての理解を深めていただいた。ボランティアについて案内ポスターの掲示を行っている。

救命講習は全学科、学年にて行っており、当日欠席者以外は全員講習を修了した。オープンキャンパスでは、年齢を問わず見学希望者には体験と説明を行っている。

公開講座については現在実施できていない。

【課題】

* 全体

ボランティア活動については、学生から希望が合ったため支援の検討を行った。

ただ、実際に希望者を募ったところ特に学生からの申し出がなかった。地域の方に対する公開講座が実施できておらず、この部分で地域の方のニーズと当校で何ができるかを検討していく必要がある。

【今後の改善点】

* 全体

どのように学生のボランティアについて支援していくのか学校として引き続き検討していく。次年度以降どのような公開講座を行うことができるのか、また実施できる体制を用意できるよう検討を行っていく。

(11). 国際交流

評価項目	対象	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
・ 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか	全体	【4】
・ 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	全体	【4】
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	全体	【4】
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	全体	【4】

【現状の取組状況】

* 全体

日本語学校については、5校訪問し、情報共有を実施した。月一で在留資格を確認

アルバイトについては、担任管理で個別調査を実施し、週28時間以内の指導を徹底している。留学生は比較的に出席率は良いので出席指導は順調である。留学生を対象とし、週2時間、水・金曜日の6時限目に日本語の授業を実施し、N1取得を目指している。

【課題】

* 全体

人材不足により、在校生や卒業生の出身の日本語学校を全て、訪問できていない。中には、少し問題となるバイトをする学生がいたら注意が必要となる。担任のみでは、サポートできない場合がある。N2合格者は1名でたが、N1合格者はなし。

【今後の改善点】

* 全体

留学生は、FacebookよりInstagramが有効となるのでInstagramの更新を多くする。学生に寄り沿った指導ができるよう体制を強化する。留学生担当事務員を採用し、体制強化を図る。専任教員を雇用し、日本語の授業を改善していく。